

# 再発見! 緑と伝統のリレー —埼玉県さいたま市見沼たんぼにおける魅力継承のための空間提案—

BR16074 蛭川 絢佳  
指導教員 鈴木 俊治

## 1. 研究の背景と目的

さいたま市と川口市にまたがる見沼たんぼは、都心から約20~30kmの距離にあるにもかかわらず、大規模緑地空間を維持している。しかし、農地の減少や農業就業人口の高齢化によってその緑地の維持管理が困難となり、土地利用の転用が起きている。

本研究では、見沼たんぼの農地をはじめとする緑地風景や伝統文化が今後も受け継がれ、市民の憩いとなる空間について提案する。

## 2. 研究地域 一見沼通船堀公園予定地—

### 2.1 研究地域概要



図1 土地現況図



写真1 対象敷地の現状 写真2 見沼通船堀公園の竹林 写真3 見沼通船堀開門開演実演

### 2.2 見沼たんぼに関して



図2 見沼たんぼの位置

歴史面では、江戸中期に干拓され、たんぼとなった。また、江戸とを繋ぐ見沼通船堀が出来た。農業面では、首都圏という立地を生かし現在も作付けが行われているが、近年減少傾向である。環境面では、たんぼや調整池が遊水機能として機能したり、大規模緑地空間を生かしたりして、動植物の生息環境を提供している。

### 2.3 見沼三原則

1958年の狩野川台風によって、見沼のたんぼの遊水機能が見直され、見沼田圃の宅地化を原則認めない見沼三原則が1965年に定められた。これにより、大道橋(県立浦和西高北東)以南の見沼田圃は農地転用が原則不可となった。一方、大道橋以北は開発圧力が強く条件付きで転用が認められた。1995年に見沼三原則に変わって「見沼の田圃の保全・活用・創造の基本方針」が策定された。これは、大規模緑地空間を保全することが目的のため、農地・公園・緑地等のみ土地利用が認められるようになった。

## 3. 課題

### 3.1 問題点と調査

#### <農地の減少と後継者不足>

H9年からH25年で田畑は90.9ha減少し、H24年のさいたま市の調査では農業就業者の内65歳以上が6割、後継者がいるのは3割である。

#### <見沼たんぼの景観>

奥の木々からさらに奥側が見沼たんぼである。駅近くに見沼たんぼはあるが、らしさは感じられない。



図3 図1の①地点

図4 図1の②地点

#### <交通量調査>

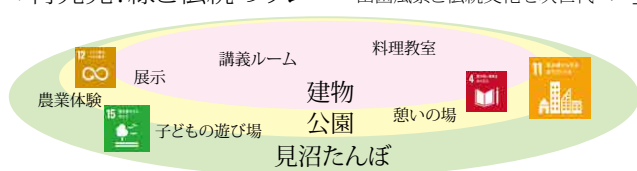
図1の①はほとんど通行者・通行車両がなく、利用している人の多くが、駐輪場の利用であった。②は、車の利用が多く、駅と南東方向の通り道に利用されている。特に土日は、この先にある少年野球によるグラウンドやドッグランの利用者の車の利用が多かった。

### 3.2 問題提起

- ・大規模緑地空間を維持するため、多世代の人が田畑の維持に関わる必要がある。
- ・見沼たんぼの良さをを知り、田園風景の維持に努める必要がある。
- ・見沼通船堀公園計画地の多くは現在、利用されていないところが多く、駅近くでありながら空き地状態である。その為、駅近くというポテンシャルを生かし利用される必要がある。

## 4. コンセプト

「再発見! 緑と伝統のリレー~田園風景と伝統文化を次世代へ~」



#### ・建物×見沼たんぼ

建物では、見沼たんぼを知れる展示が多くあり、見沼全体を学ぶことが出来る。また、農業体験などの拠点となり、駅近というポテンシャルを生かす。建物の内部は会議室や自習スペースなどの機能が展示と隔てなくあることで、利用する人にさりげなく見沼たんぼを発信させる。

#### ・公園×農業体験

公園内に農園やミニ水田があることで、農業体験のしやすさや、体験教室時のアクセスのしやすさを生み出す。子供たちにとっても公園内に田畑があることで、農業を身近に感じられるようになる。

#### ・見沼たんぼ×これから

見沼たんぼを再認識し、ここで体験農業をした人たちが「農」を継承していく組織・人材となり、見沼たんぼの魅力を発信する。このようにして、多世代で見沼たんぼの田畑、そして田園風景を後世に残すことが出来る。

## 5. 全体計画



パース1 鳥観図

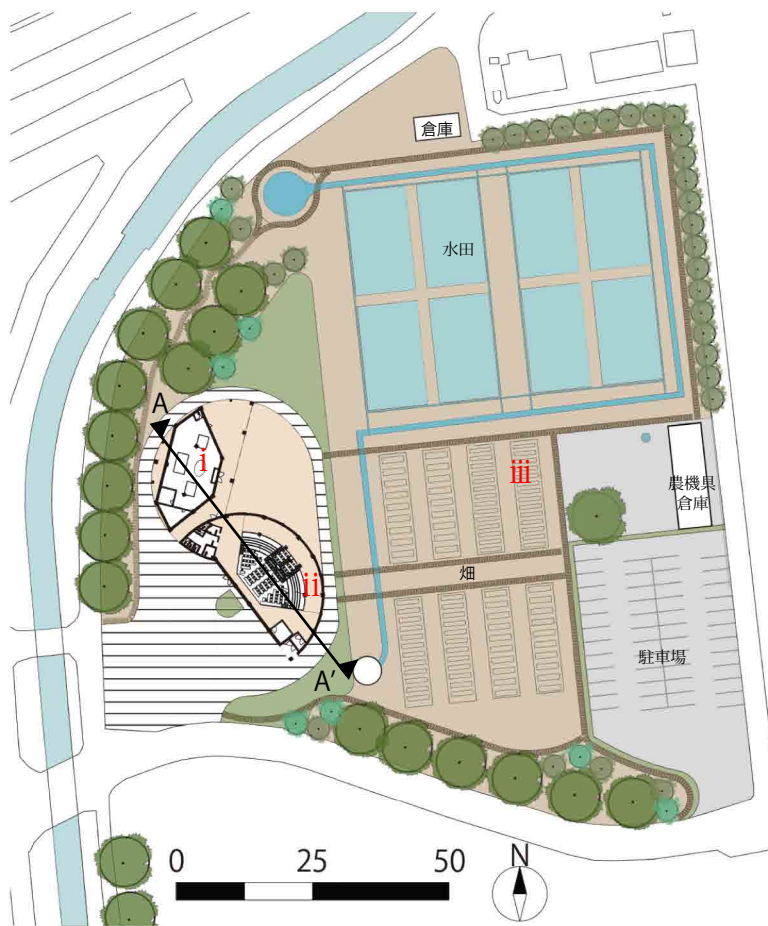


図6 配置図兼平面図

## 5.2 年間の利用計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
田畑				トウモロコシ					大根・白菜			
				トマト						ネギ		
				枝豆					人参			
				アスパラガス					キャベツ			
				サツマイモ								
				田植え								稲刈り
調理室	地域の調理教室											
	貸しキッチン											
	ひな祭りパーティー											
	新米試食・ハロウィン・クリスマス											
講義ルーム	会議・講演利用											
	学習スペース											
	見沼たんぼ展示(環境面)											
	見沼たんぼ展示(歴史面)											
公園全体	見沼の田んぼツアー											
	桜祭り											
	BBQ利用											
	収穫祭											

## 5.1 計画概要



図5 コンセプト図

農地が人々の目に入るような位置に配置した。その周りに農業用具入れや、すぐ調理できるよう貸しキッチンを含め施設がある。建物の機能は、貸しキッチン、講義室、展示スペースである。これにより、見沼たんぼを学ぶ、農業に触れる、収穫した野菜をすぐに食べる、という流れが生まれる。

### i) 調理室



パース2 調理室

見沼たんぼで収穫された野菜や、その場で取れた野菜を調理出来る。イベント時だけでなく、料理教室や貸しキッチンとして開放することで、この場所の利用しやすさを向上させることができる。

### ii) 講義ホール



パース3 講義ホール

講義堂のような空間だが、壁面やその周りに見沼たんぼに関する展示を行い、さりげなく見沼たんぼを発信する。

### iii) 体験農業



パース4 公園の中の農地

公園内には水田と田畑があり、どちらも地域に開放されている。農地への親近感を生み出す。



図7 A-A面断面図

## 6. 総括

見沼たんぼの農や歴史に触れる機会を生み出すことで、単に後世に田畑・歴史が残るだけでなく、農業に携わる人材や、システムの成長も出来る。これによって、見沼たんぼ全体のリレーとなる。

### 参考文献

- 見沼たんぼホームページ <http://www.minumatanbo-saitama.jp/>
- さいたま市ホームページ <https://www.city.saitama.jp/index.html>
- 見沼たんぼ地域ガイドマップ及び配布資料